

東区物語

歴史を知ることにより、住み慣れた街も、いつもとは違う視点から見つめることができますようになります。

今年度から、区民の皆さんに郷土の歴史をお伝えする、語りの会「東区物語」が開かれています。今回は、第一回（五月十五日開催）で取り上げられた「**村橋久成**」と、第二回（九月四日開催予定）の「**大友亀太郎**」についてご紹介します。



「国産ビール 札幌発祥の立役者」
 開拓権少書記官 **村橋 久成**
 (1842～1892)
 (写真：北海道大学附属図書館所蔵)

東区物語 (第一話)
 平成十六年五月十五日(土)
 ところ：東区民センター
 語り：田中和夫氏
 (北海道文学館評議員)

九州で生まれ北海道へ

村橋久成は、一八四二(天保十三)年に、九州薩摩藩主島津家一門、加治木島津家の分家の嫡子として生まれた。世が世であれば、家老となる家柄の出身である。村橋は、一八六五(慶応元)年に、富国強兵や外国貿易の推進をくろむ藩の命令で、藩内から選抜された留学生十五人のう

ちの一人として英国に渡っている。この時、英国の近代産業の様子を目にしてきた彼は、後に開拓使で北海道の産業振興に力を尽くすこととなる。

一八七一(明治四)年十月、薩摩藩出身の開拓次官(後に長官)黒田清隆に声を掛けられて北海道開拓使に出仕する。来道前の彼の任務は、東京官園という農業試験場の管理であった。東京官園とは、外国から輸入した家畜や農産物を試験的に飼育、栽培し、その中から北海道に適するものを選んで、北海道に送るという中継基地のようなものであった。その後、村橋は来道し、函館郊外の七重村(現在の七飯町)の広大な荒地の開墾や、札幌周辺の屯田兵村の入植地選定などに従事。札幌では、四方八方の地形調査や琴似の屯田兵の入植準備なども行っている。

東京での

ビール工場建設計画

一八七五(明治八)年に、村橋は東京に呼び戻され、再び東京官園の責任者となるが、その時に、東京官園に試験的なビール醸造所を造る計画が

サッポロビール博物館



開拓使以来のビールの歴史を、現代に伝えていきます。
所在地 北7条東9丁目
連絡先 ☎731-4368
開館時間 9:00～15:40
休館日 年末年始
 (平成16年10～11月は改装工事のため休館予定)

進んでいた。このころ、ビールの原料であるホップの栽培が北海道の気候に合うことがわかったため、開拓使ではドイツから種を取り寄せて栽培をしていた。そして、それを原料とするビールの醸造所を東京に造ろうというものである。この計画には、当時、急激な近代化政策への不満が、世の中に渦巻いていたため、東